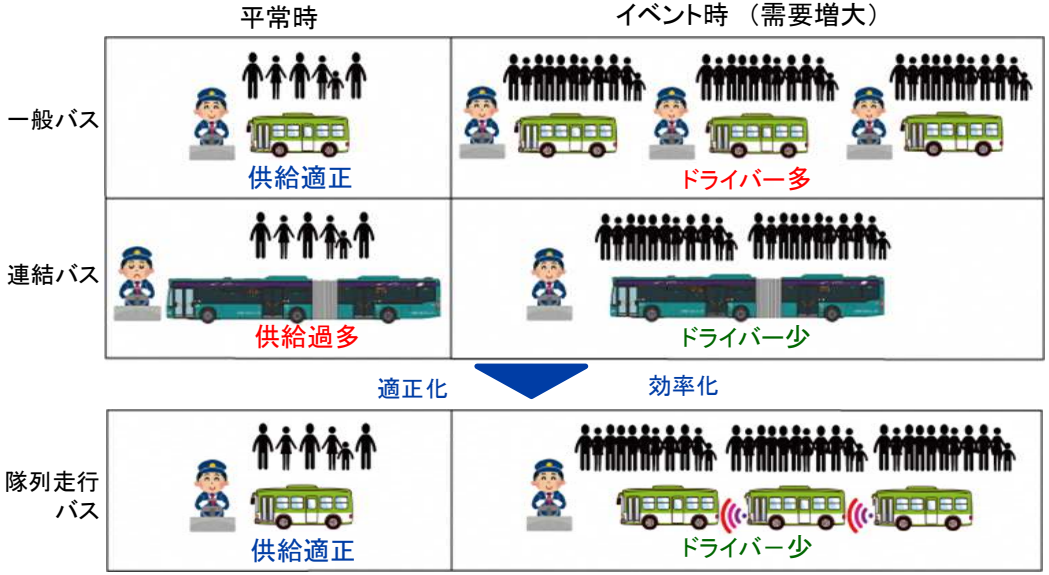
バス隊列走行について

＜隊列走行のあらまし＞

有線通信によるワイヤ式電子連結装置とレーザーセンサによる無線式電子連結装置を組み合わせることにより、天候や電波環境に影響されにくい安全性を高めたシステムの構築を目指す。

本システムは連結と非連結の切り替えが容易であることから、需要増大時と平常時の需要に見合った配車や、複数路線間で車両やドライバーを融通することが可能となり、効率性、持続可能性が高まる。



- 一般のバスは、イベント時に適切な台数のバスを調達するのと同時に、台数分の運転手の調達を必要とし、平常時とイベント時の運転手の確保数の相違に課題がある。
- 連結バスは、イベント時において高い輸送能力を有するものの、平常時においては供給過多の状態となってしまう。

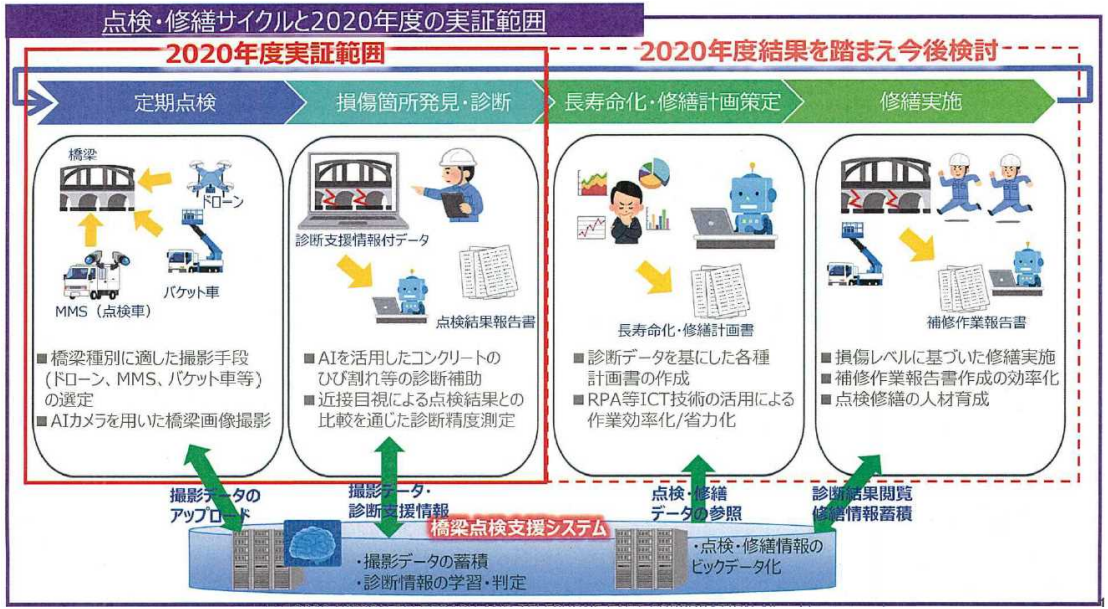
  また、導入・維持費用が高価であり、運転手に通常以上の運転能力を求め、かつ、連結バスの運行を可能とするようなインフラ整備を別途必要とする。
- 隊列走行バスは、平常時・イベント時にそれぞれ相応の台数のバスを調達でき、かつ、運転手の調達を最小限とすることができるため、安定した運転手の確保が図れ、また、イベント時においても状況に応じた台数をもって運行することができる。

橋梁の長寿命化に係るAI･ドローン活用の実証実験について

＜ＡＩ・ドローン活用のあらまし＞

　インフラの長寿命化は、行政の喫緊の課題である。
　そのなかで、熊谷市は橋梁数が1,000橋を超え、それらの長寿命化管理について、計画的に進めている状況である。

　今回、ＮＴＴ東日本様から、橋梁の長寿命化についてのシステム構築について興味があるとのお話をいただき、本市の長寿命化事業の業務環境を一部提供し、実証実験を行っていただくもの。



- 　長寿命化事業は業務委託により点検調査をしているが、この調査に帯同し、ドローンを使い必要サンプル（写真データ等）を取得する。
- 　必要サンプルを受け、ＡＩによってその橋梁の耐久性、修繕の必要性などを分析。
- 　ＡＩでの分析結果と本市の委託業務での分析結果との照合を行い、正確性等を確認し、今後の方向性を検討する。